

令和6年1月1日

立教187年

新春号
第616号

字(うに)仁

発行所

天理教宇仁大教会
〒677-0015 西脇市西脇770-4
電話 0795(22)4066番
FAX 0795(22)4072番
unigrandchurch@yahoo.co.jp

立教187年 謹賀新年



散歩道

新年あけましておめでとうございます。また、つお正月を迎えられたことに、「もう何回目のお正月だろう」という感慨と共に、変わらぬ月日の流れに親神様のご守護をしみじみと感じられる年齢になってきました。

お正月は、日本の行事の中で最も古くから存在し、子孫繁栄や五穀豊穡を授ける年神様をお迎えする行事で、正の字には「たましいが若返り、新しくなる」という意味があるそうです。これはクリスマスや冬至と同じく、再びお日様が出てくる時間が長くなる季節の境目に、洋の東西を問わず昔の人々も感じるものがあったのだろうか、と想像します。

また大小、段に重ねた鏡餅は月日陰陽を表し、「円満に年を重ねる」などの意味も込められているようです。今年の本部のおせちはおかわりが出来るとの事。真心のこもったお雑煮をおなかいっぱい頂いて若返ると共に、家庭内が、そして世界中が円満に過ごせるよう、祈りを新たにしたいと思っています。

新年のご挨拶

宇仁大教会長 神田美香子

明けましておめでとうございます。旧年中は、コロナウィルスやインフルエンザの感染予防に徹底しながら、お道のご用の上にお心寄せお力添えを賜り、誠にありがとうございます。

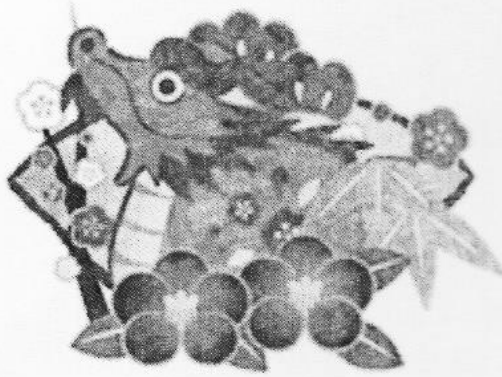
殊に、大教会『創立百一十周年記念大会』には、それぞれの教会のおつとめの充実を図る上から、次代を担う若い世代の方達におつとめ頂き、盛況の内に執り行うことが出来ましたこと、厚く御礼申し上げます。

さて、本年は『教祖百四十年祭』へ向かう年祭活動二年目の年に当たります。昨年の記念大会で、松村世話人先生から、「今までの自分よりも少しでも成人できるように 生懸命つとめる。その結果、今までよりも成人する、成長する、その姿を教組の年祭の日にご覧頂いて、教祖に安心をして頂くのが年祭活動であります。」と、お聞かせ頂きました。

ようばく一人ひとりが、この時旬に教祖年祭という一つの目標に向かって、こどもの成人を急ぎ込まれてお姿をお隠しになられた教組の思召し、御心を思い返し、それにお応えできるように、実践し成人していけるように努めさせて頂きましょう。

年祭活動は、陽気ぐらしへと向かっていくための一つのステップだと思えます。自分たちの定めた目標へ向かって、しっかりとにをいがけ・おたすけに歩ませて頂きましょう。

皆様方には、『教祖百四十年祭』への動きが、昨年よりも活発になるように、手一つに心を合わせ、教祖にお喜び頂けるように、明るく勇んでおつとめ下さいますよう、本年もよろしくお願い申し上げます。



教祖百四十年祭

年祭活動の方針

教祖にお喜びいただけ

心の成人につとめよう

目標

- ・おつとめと おきづけで

世界の治まりと

人のたすかりを願おう

- ・にをいがけ ひのきしんで

心を勇ませよう

- ・教祖のひながたを辿り

陽気ぐらしを味わおう

天理教宇仁大教会

年頭のごあいさつ

布教部長 笹倉雅浩

新年明けましておめでとうございませう。

旧年中は、布教部の活動の上にご理解とご協力を賜り誠に有り難うございました。

昨年は、教祖百四十年祭に向かう年祭活動の歩み出しの年として、布教部では年祭活動の要とも申すべき「にをいがけ・おたすけの実践」に 人でも多くのように信者の皆様に動いていただきたく毎月十五日の『教祖のお供に歩かせて頂く日』と十四日大教会月次祭後の『親神様の神名を世界に流す日』の布教実動日を設け、大教会を拠点に教祖のお供に歩かせていただいでまいりました。

他にも『別席団参』『おかわり講話』『布教推進講話』『教祖と共に歩む一年千日(宇仁会報における布教報告)』などようぼく 人ひとりのたすけ心の涵養を目指して活動してまいりました。明けて本年は年祭活動一年目、年千日の真ん中の年を迎える

あたり、本部たすけ委員会より教会活動の芯となる教会長夫妻が改めて教祖年祭の意義を心に刻み直し、ようぼく信者の先頭に立ってたすけ一条の御用に邁進すべく『教会長夫妻おたすけ推進のつどい』の開催が打ち出されました。

布教部といたしましては、昨年より続けてきました布教実動を今後もコツコツと継続しながら、更には今年開催される『教会長夫妻おたすけ推進のつどい』がいち行事で終わることのないよう、本部たすけ委員会が推奨される「日々のにをいがけ」「積極的なおたすけ」「ぢばの理を戴く」の 項目を全教会長夫妻が実践し、やがてその姿勢がそれぞれの教会に繋がるようぼく・信者の手本となり教会内容充実に繋がることを願ひ、その後押しとなる行事・活動を企画していく所存でございます。

今後とも、部内教会長の皆様をはじめ宇仁大教会の理に繋がるようぼく信者の皆様には、旧年に変わらぬ布教部の活動の上にご理解とご協力を賜ると共に、各行事・活動に奮ってご参加下さいますようお願いいたします。

青年会新委員長 挨拶

この度、十月二十六日をもって青年会宇仁分会新委員長になりました西脇分教会 遠藤拓弥です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

これから宇仁分会も新体制になります。「皆んな勇ましてくそ、真の陽気という。」とお教え頂いていきますように、ひのきしんを通して宇仁分会全員がお互いに勇ませ合えるような分会を目指していきたいと思ひます。

分会活動としては、要請があれば、教会に出向いてひのきしんのお手伝いをさせて頂きたいと考えております。

教祖百四十年祭、年祭活動のこの旬に宇仁分会もどんどん活動していこうと思ひますので、教会の皆さま、青年会層の皆さま、ご協力、お力添えよろしく願ひします。

また、十月 十五日には、本部にて第九七回天理教青年会総会が開催され、宇仁分会からは、七名の青年会員が参加させて頂きました。御参加、お声掛けありがとうございました。

女子青年

「こかん様につづく会」

十一月二十六日(日)におおばにてこかん様につづく会を開催させて頂きました。本部中庭で月次祭参拝させて頂いた後、詰所でお昼ご飯を食べ、パネルシアターをさせて頂きました。パネルシアターは気軽に道徳の教えに触れることができ、よい学びの時間になったと思ひます。その後みんなで今後の活動でしてみたいことなど話し合い有意義な時間を過ごした後、詰所内で清掃ひのきしんをさせて頂きました。

参加して下さった皆さまありがとうございました。毎月十四日の例会に参加が難しい方もおぢばでお会いできてすごく嬉しかったです。



一理塚

正月とは、この世の人間を月様（くにとこたちの命）が正しき御心にてお始め下されたる故に、年の始めを正月と言って祝い、元旦とは日様（をまたりの命）の理である。門松を立て、七五（しめ縄）を張って、年徳大善神と祭り礼拝する（年徳とは十ヶ月一百六十五日の御守護）は、年のご守護を願う中でこの恩徳に礼を捧げる。先人から伝えられる正月の教えの一節です。

原典から正月という文言を上げますと、おふでさきにはカ所あります。「寸はなし正月十日ひをきりて をくるも神の心からとて」（1 39）と、「十に九がなくなりてしんわすれ 正月廿六日を待つ」（3 73）。首ともに正月という日を仕切り、日を定めて期限を仕切って事に当たる様のお歌であります。

次におさしづ、索引で正月というお言葉は十項目あります

が、一つあげると「正月 十六日と筆に付けて置いて、始め掛けた理を見よ」（M22・3・10）というお言葉があります。このおさしづはおふでさき第号七十番のお歌に深く関連します。

最後にみかぐら歌、下り目「正月こゑのさづけは やれめづらしい」と、下り目「とんとんと正月をどりはじめハ やれおもしろい」があります。様々な解説の中、貫して正月は嬉しく楽しいものであるという事です。生まれて初声を出げ成長の道中、喜びの声とともに、怒る声や不足の声を出すようになるが、神様の教えを聞いて良い心になって、俗に言う正月言葉のように、目出度い目出度いと褒める言葉を出すと、おさづけのめづらしい効能が戴ける。正月気分であれしく楽しくかぐらを歌い踊る中に、めづらしいさづけの効能が戴ける。増々神様の御守護に踊るほどの喜びがあふれ、成人の道中に目見て耳で聞いて心に思い患う事も、正月心で良い心に戻れると教え

られます。（当時は「肥のさづけ」と「扇のさづけ」だけで、「扇のさづけ」は悪用する者があり取り上げられたりして「肥のさづけ」のみが戴けるおさづけだった）

また辞書にて、正月は各暦の年始めであり新年です。文化的には旧年が無事に終わったことと新年を祝う行事であり、おそらく日本の行事の中で最も古くから存在するものだと言われています。月を正月と呼ぶのは、「正」という字に、年の始め、年を改めという意味があるからだそう、一年の始まりに「年神様」という神様が各家庭に來られ、幸せをもたらすと言いつわり、年末には大掃除をして、門松やしめ縄を飾り、餅をついたりおせち料理を作ったりして、家族で年神様をおもてなししてお祝いするのが、日本の伝統行事でありました。

正月に目出度いとされるものは沢山ありますが、新年という事で初が付くものを思い巡らしますと、初詣、初富士、初日の出、初湯、初夢、初鏡、初笑い、

「天理教の時間」

家族円満

気づいていますか？身近にある幸せ

書初め、出初め式、仕事始めまだまだあると思います。日本人は昔から「初」を大切にしてくださいました。中でも「新年」は特別のものでした。

「一年の計は元旦にあり」

さあ、教祖一四〇年祭に向かう年千日、その中の一年目の年の始まりです。この旬に確りと心を定め、愉快に楽しく歩みながら、不思議なめづらしいご守護を戴きましょう。

週に一度、心のつかい方を見直してみませんか？毎週金曜日、教えに基づいた“家族円満”のヒントをお届けします。詳しくは、天理教HP「天理教の時間」に掲載されています。

少年会宇仁団 & 学生会 合同お泊り会

11月11日～12日にかけて、大教会でおとまり会を開催しました。参加者は宿泊・日帰り合わせて21名でした。

初日は午後の時半に大教会集合。簡単なリズムゲームに続きおつとめ練習。その後バスでへそ公園のテラドームに移動してスタ ウオッチング。巨大な望遠鏡で土星の輪や木星の衛星まで見ることが出来ました。その後も工作やプラネタリウムの見学など、予想以上に楽しませてもらいました。

大教会に戻って神殿階下に張ったテントの中で寝袋で就寝。寒がりな子は寝袋を3枚重ねて寝ていました。

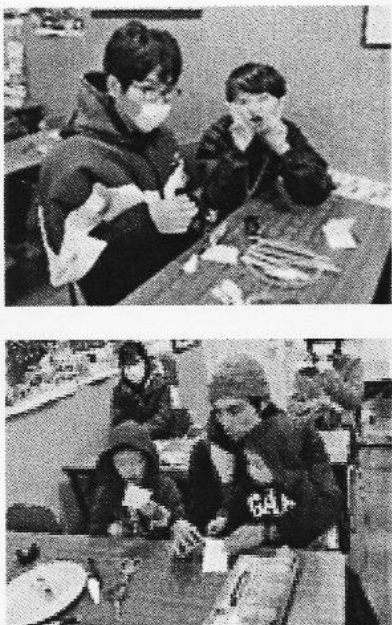
日目は朝づとめ、朝食の後ピッキ の謎解きゲームに挑戦。女心チ ムに別れましたが、ほぼ同時に解き終わりました。続いて買い出し、会場準備も子ども達と 緒に行い、車庫の中でバーベキュー。焼きマッシュマロ

にデザートのプリンまでついてみんな満腹で帰途につきました。季節の変わり目で天候も微妙でしたが、何とか実施できました。子ども達の「楽しかった」という声も聞かせて貰えましたので、またいろんな企画を考えながら定期的に開催したいなと思っています。ご参加ご協力頂きました皆さん、ありがとうございます。

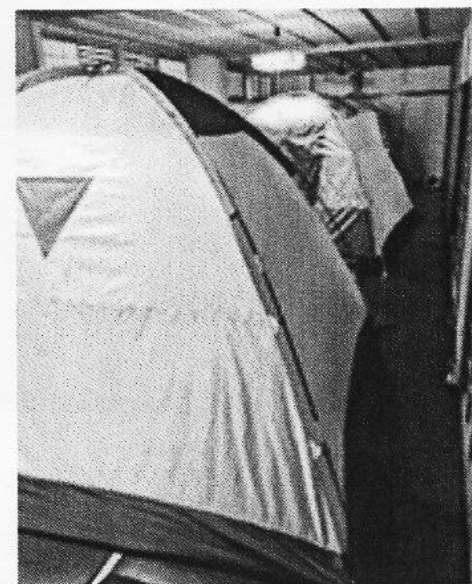
◎巨大望遠鏡で天体観測



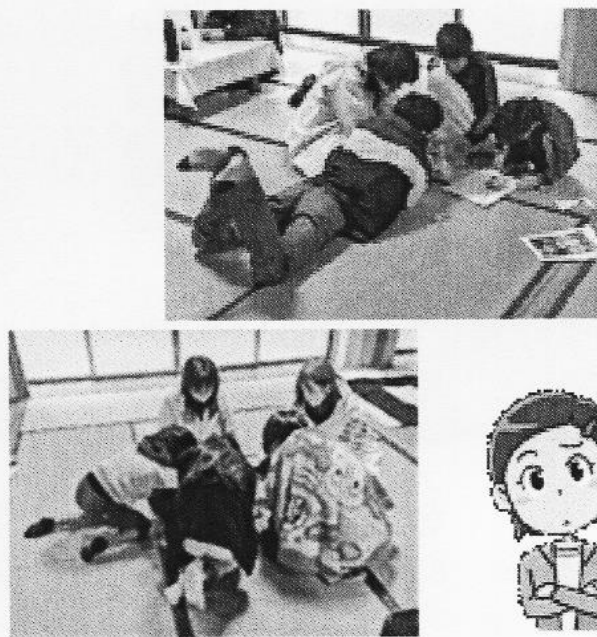
◎テラドームで製作



◎テントでキャンプ気分!!



◎謎解きゲーム



◎バーベキュー



ウーニーバンド 「兵庫みちのこ 音楽祭」出演

12月10日、兵庫みちのこ音楽祭に出演しました。4年ぶりに開催され、雅楽、鼓笛、ダンスと多彩な音楽祭でした。



『宇仁会報に見る大教会史』 第85回

⑤創立100周年

(29)

平成五年十一月 十九日、前日から真柱様、善司様ご夫妻のお入り込みを頂き、創立百周年記念祭が盛大にとめられた。

宇仁会報第256号(平成六年 月号)の巻頭には、『当日は雲一つない青空に恵まれ、早朝よりようぼく信者らが大教会に参集。またたく間に神苑は人の波にあふれ、その数は一四〇〇名余りに及んだ。』と記されている。この号は百周年記念祭の特集号として、宇仁会報始まって以来最大の十六ページ仕立てで編集され、表紙と裏表紙はカラー印刷になっている。内容は、真柱様のお言葉が3ページ、祭文が1ページ、感想文が4ページ、写真が3ページ、ドキュメントと役割表、インタビュがそれぞれ1ページ、年頭あいさつ他が2ページで、ちょっとした小冊子である。

これを見れば、百周年がどんな風にとめられたかがよく分かり、プログラムや進行表以上の貴重な資料である。宇仁会報の面目躍如といったところで、当時の編集長藤原福雄氏の苦心のたまものである。

ところで、一世代というのは概ね一十年を指すそうであるが、百周年から丁度一十年たつて当時はおつとめ役割表を見ると、当時も今も現役会長なのはわずかな名だけで、見事に世代交代しているのがわかる。

百周年で特筆すべき事といえば、やはり真柱様ご一行がお泊りになったという事であろう。横山道生久下山前会長の感想文には、「真柱様ご一行がお泊りになると聞いた時、『しめた！これで全員が手ひとつになれ』物事を進めるのに楽々では本当の手つになれない。苦労が倍した時、本当の一手ひとつが生まれる」と記されている。

おぢば通信

十一月のうづき

◎別席の誓い

兵庫中央 一名

◎十一月帰参者

一六七名 (詰所調べ)

1月行事予定表

- 1日 元旦祭
- 5〜7日 お節会
- 9日 婦人会初例会
- 15日 布教実働日
- 19日 少年会初例会
- 24日 大教会春季大祭
午前10時30分執行
神名流し
- 26日 本部春季大祭
午前11時30分執行



婦人会より

◇大教会炊事当番

- 1月 中河合
 - 2月 豊原
 - 3月 神福A
- よろしく
お願いします

編集部より

改めまして、新年あけましておめでとうございます。本年一月より、宇仁会報の担当になりました道延分教会の畑中理孝です。今回から宇仁会報を任される立場になり、「本当にこのような自分で務まるのか」と自信は持てませんが、前担当の方々が作り上げてきた宇仁会報を皆様のご協力をもとに非力ながら作り上げていきたいと思ひます。その為には、今までの宇仁会報の作り方をしっかり引き継ぐことから始め、少しずつ新しい宇仁会報へと進化できるように精進したいと思ひますので、どうか今後とも皆様のご協力賜りますようお願い申し上げます。 (宇仁会報担当 畑中)